

NO.

作成

年

月

日

部

課

配布先

1989
夏山合宿報告書。

1. 行先 --- 立山～針の木岳

2. 日時 ---- 8/9～8/15

3. メンバー --- C.L 大矢
 S.C.L 板倉
 龜山
 岡野
 和田
 藤田
 伊藤
 木村
 湟原
 石田

経路
作成部署↓報告部署

保管
写原紙
年 年

承認

検討

作成

下
下

'89 夏山合宿を振り返って

NO.

作成 89年 8月 16日

部 課

配布先	

“思えば遠くへ来たもんだ” 8/15、夏山合宿最終日
 ガスの合間に今ラッと剣立山が見える針ノ木岳頂上で浮
 かんたのが、このフレーズである。室堂より入山、立山連峰から
 ダイヤモンドコースを南下、三俣蓮華岳で折返し、裏銀を
 北上し針ノ木までというハードな計画も好天に恵まれ完走を
 もって終えることができた。

6月度運営委員会にてCL、SL及びWコースが決定し、メンバー
 集め、留守部員の依頼、ホッカ訓練、2度におたる平地合宿等、
 計画準備は割とスムーズに運んだと思う。半面、テントポールの
 手配、電車切符予約状況確認、途中入山する木村エミとの連絡方法
 等、直前になってゴタついたこともあり、反省点もいくつかある。まず、
 人をうまく使うということである。しかしあれこれと細々したことに手を出
 していると、肝心の計画全体を見失うおそれがある。やり残した事
 があれば、項目ごとに担当を決めた一欄表を作り行連にておけば
 ド忘れする人もないと思う。また、メンバーの体力という点で見ると
 ある人といない人で体力差が大き過ぎるという問題は、春山合宿
 でもあったが、今回ホッカ訓練をやたにもかかわらず、未だ解消されて
 いない。トレーニングは、余裕をもって楽しく山に行く為にやるもの
 であり、“やらされるもの”ではなく“やるもの”である。体力の落ち
 を自覚している人は特に日頃から励んでほしいと思う。苦しい
 だけの山登りなんて全くつまらない。

合宿については、前述の様に好天に恵まれ無事完走できた。
 特に、本格的な山は初めての和田エミや、膝の持病のある伊藤エ
 が頑張ってくれたので助かった。今年は残雪が少しいので全員

経路 作成部署→報告部署

保管
原紙
年 年

承認
検討
作成

〒 _____
〒 _____

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	

持参したピットルも、初日の鬼岳のトラバースで役に立ち、良かった
 と思う。また、夏山診療所のある山小屋を調べておいたのも、
 薬師峠で木村さんが体調をくずした時に役立った。反省点としては、
 CL・SLの連打が今一歩だったということである。体調ごとに、
 コース状況、次の一本の場所等をもっと打合せるようにすれば良
 かった。また、日程的に余裕がなく（特に後半）、例えば、短
 か目のコースの日をどこか一日改めて調整するようにする等、長
 コースの場合は計画段階での工夫が必要だと思う。

最後に、終始トップに立ってパーティーを引張ってくれたSLの
 板倉君を始めメンバー各員、本部の町田さんを始め留守部員
 の各々への感謝の言葉をもってこの手記を終えることにする。

大矢

経路 作成部署 ↓ 報告部署

保管
写 原紙
年 年

承認
検討
作成

NO.

作成 89年 8月 20日

山岳部 課

集会用報告書

山域	室堂(立山)~五色原	山行日	89年8月9日	メンバー	CL: 大井 琢倉 伊藤 龜山 藤田 和田 岡野 右田 窪原
----	------------	-----	---------	------	--------------------------------------

<11-1回・コ・2010>

8:15 ~ 8:40	室堂
9:25 ~ 9:40	一の越山荘
10:15 ~ 10:40	雄山
11:10 ~ 11:30	一の越山荘
12:35 ~ 12:50	鬼岳手前のコル
13:50 ~ 14:15	しし岳の手前
15:05 ~ 15:18	ワラ峠
15:50	五色原(テント場)

<所見>

8:15 室堂エビスから降りた時から、空気は冷たく感じる程で、お高度にかせいでし、T=0E 雨にも淋しくも感じた。

室堂E出発してから、一の越山荘まで、きれいに整備された登山道が続く。一の越山荘へ重(?)ゲージを置いて雄山へと進む。視界はすばる良行で、両方に雪渓が残っており、今年はいく時期が遅れているのを感じる。雄山に着くと、たくさん人がいて観光地化してしまっている立山に少し淋しいと感じた。¥300を払って鳥居の中へ入る。今回唯一の3000mの地に立ち、鐘の音を¥300とは、あまりに高すぎるという腹が立つ。雄山を降り、一の越まで一気に下る。ここからが本日の合宿の始まりのような気がして気持ちがひきしめる。

少し早く、登山道の両側は、たくさん花が咲き始めていて、とてもうれしくなる。子ギョウ・ハクサンアザミ。大好きなハクサンイチゲもたくさんある。

鬼岳の東面の手前のコルの雪渓のとこで一本とる。アツタウンがあまりな、まじうはすばる良行な山行だ。

あたりがただ、広くた、たところ、まじうのテント場の五色原につく。少し遅い到着だった。天気も良、快適な一日だった。

報告者 窪原 報告日 89年8月20日

経路 作成部署 報告部署

保管 原紙 年

承認

検討

作成



* 集会用報告書 *

NO.

作成

年

月

日

部

課

山域

五色ヶ原 - スゴ栗越

山行日

昭和29年8月10日
昭和 年 月 日

参加者

CL:

配当先

集会用18

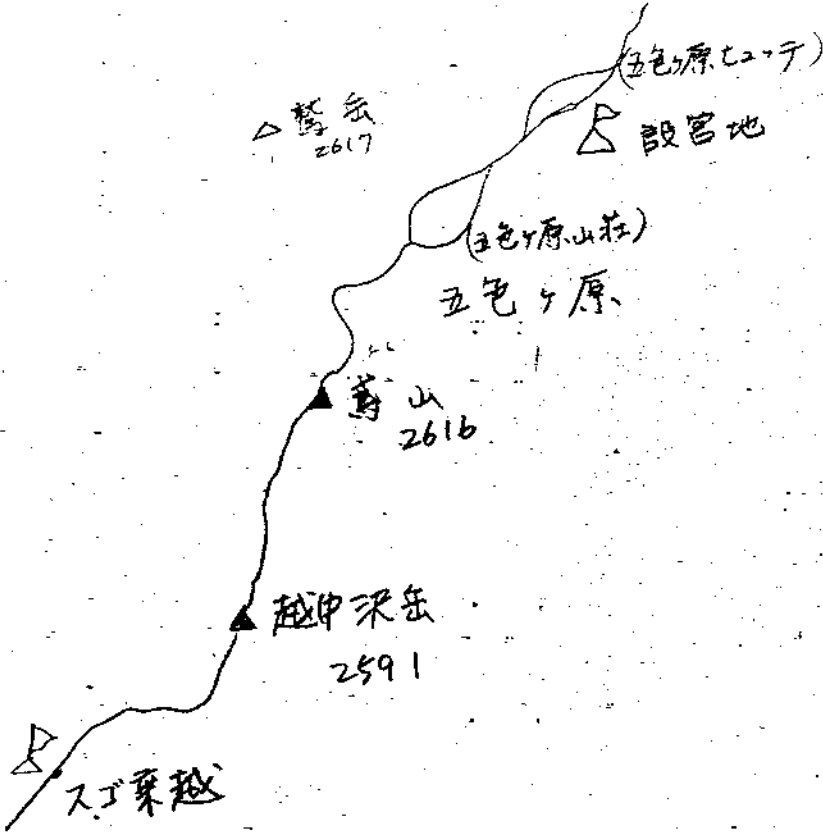
万山

山行日

原紙

(委員会)

<ル-ト図>



- 5:15 五色ヶ原出発
- 6:10 嵩山着
- 6:20 " 出
- 7:35 越中沢岳着
- 8:00 " 出
- 8:55 休憩
- 9:10 出
- 10:10 スゴ栗越
キャンプ場

<所見>

五色ヶ原を出る頃には、天気は曇りがちであったため、少々セーターが凍り、たためる。目的地のスゴ栗越には(予定)10:10に着いた。着いた頃に雨が降り出したが、午後4時頃に7時と陽もさし、とおく、針、木、鳥帽子、赤牛、カビ一望できるところにたいた。越中沢をふり返ると沢の2 険しさが知りされる。

報告者

右田

報告日

29年8月23日

8/11 快晴

昨日のガスも晴れ、満天の星で目覚めはすばらしい。今日で途中下山の秋になるとは最後の日程となり、明日は下山、薬師岳をわざとわざとで出発。

昨日とは違って変り、向山を登る途中では北アルプスの山々が全て見渡せるほどの展望で、時々山の名を言いながらはしゃいだ。

向山について良く知らない秋になるとは本来に勉強になる。

北薬師ピークで本日の休憩、おキノの景色の良さに知らず知らずと弁当を全部食べてしまい、大天板店両君のおかぶ取って食べた。

北薬師から薬師岳までは山頂の祠が見えるほどの距離だ。

この3日間の日行も振り返り、薬師岳への最後の登りに入る。思えば初日は慣れないせいか、バテルのではないかという不安があったが、

右田さんのやさしい気くほりのペースで歩くとが

ここまで、これ大感謝。

薬師岳山頂では今日、合流する予定の伊藤片崎⁽¹²⁾氏と友人が、スイカをわざとわざと降かして下さり、思いもよらない差し入れにメンバーは大喜びで、スイカを食べた。この時はさすがにビールもありがたかった。

山頂からは速く大橋も望む事もできた。谷間のカメラで記念撮影もあさるほどした。おじいさんと休憩をし、今日の予定へとも戻って下った。

3:00 北(12)	開山	7:30	薬師	薬師峰
5:15 発	6:00	7:15	8:40	10:35
	6:15	7:40	9:30	



* 集会用報告書 *

NO.

作成

年

月

日

部

課

山域

89'夏山合宿(4日)
兼師峠~折立~刈谷

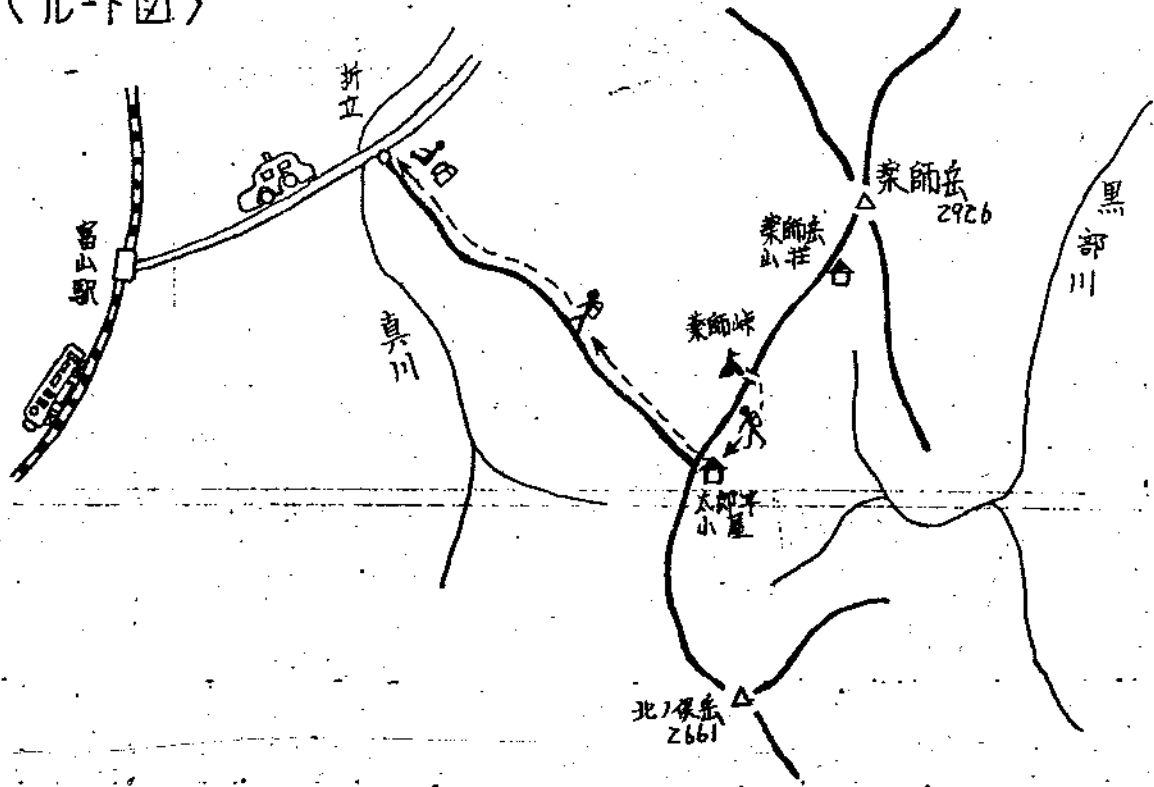
山行日

昭和89年8月2日
昭和 年 月 日

参加者

CL:
亀山・藤田(崎)・木村(暢)
窪原・右田・和田・岡野

<ル-卜図>



八月二日(土) 晴れ

起床 12:00

兼師峠 14:20

太郎平小屋 14:40

三角点の少し上 16:08

折立 17:25

富山駅 19:25

刈谷 16:25

<所見>

今日は我々半日程パーティの最後の日である。やと帰れるという気持ちと、まだなごり惜しいという思いで、心は複雑である。起床後、空を見上げると星が無数に輝いており、今日も天気は良さそうである。

午前4時に全日程パーティを見送り、我々も、後片付けを終え、伊藤・今崎パーティと共に、兼師峠を後にする。太郎平小屋で兼師岳を振り返ると朝焼けが、とてもきれいで、空気も澄んでおり心身共に新鮮になれるような気分だ。

尾根では、有峰湖を見下ろし良く整理された登山道を下山した。しかし途中から登山者の数が非常に少くなり、折立に着いたときは、登山客でこた返し、祭り騒ぎだった。折立からは、タクシー・JRと乗り継ぎ、帰途した。

報告者 岡野

報告日 89年8月22日

'89

- 8/12 (4日) 晴.

薬師山 C.S — 2576 ピク — 中俣乗越 — 黒部五郎分枝

3:55

5:05
5:30

6:50
7:15

8:26

黒部五郎頂上 — 黒部五郎分枝 — カール下 — 黒部五郎小屋

8:50

9:30

10:00
10:07

10:48
10:58

— リょう操上 — 三俣 C.S

11:45
12:00

12:55 着

今日は、途中下山組と、全日程組とに分かれて行動する日。3日間共に行動した人たちと分かれ、針の木までの縦走に、大矢、板倉、伊藤の3人のメンバーで向かう。いっしょに行くはずだった木村君が、急に体調をくずし、行けなくなったのが、非常に残念である。彼の分もかいて3人と、朝暗いうちにみんなに見送られ出発する。今日も旧天気は上々である。

荷物がそれまでよりずっと重くなり、黒部五郎の頂上に着いた時は、私伊トは完全にバテていた。他の2人は元気満々である。

黒部五郎からは360°のパノラマが最高である。又、カールに下ると、お花畑、小川のせせらぎがあるかと思えば、荒々しい岩肌もあり、全くの別天地である。板倉君は、ここは初めてであり、特に感動していた。

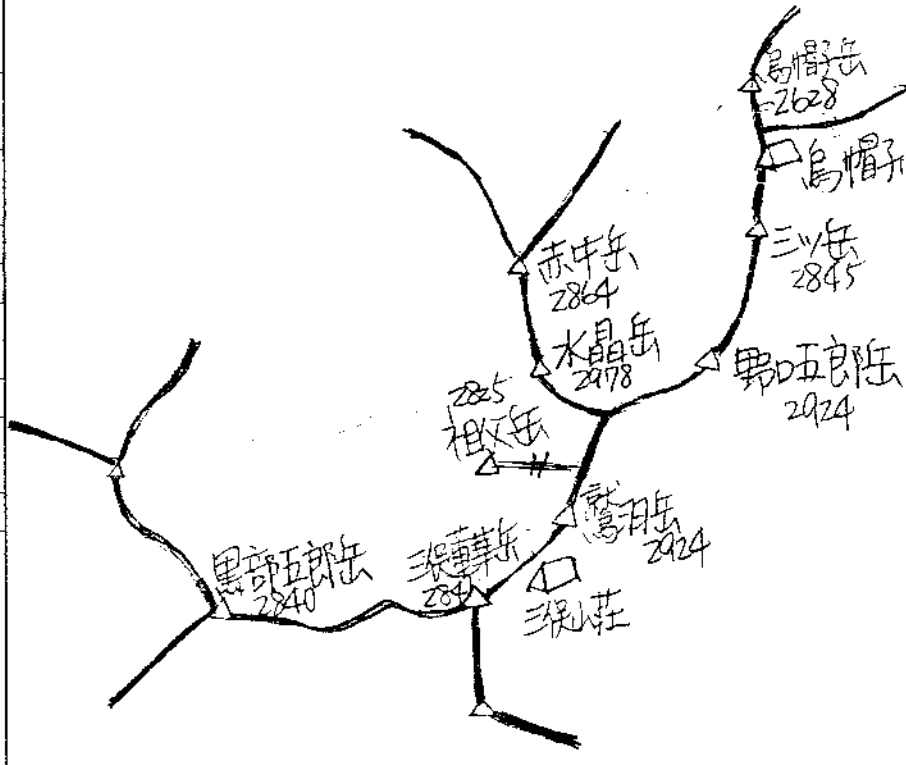
その後、三俣蓮華岳をトラスし、C.Sへ。C.Sへ着いてから板倉君が三俣蓮華岳をピストンする。(他の2人は、何度も登った山なので、C.Sで飯炊きの準備をする。) このC.Sも雪ヶ岳の水が豊富で、ゴミも捨てることも出来、又、鷲羽岳のながめがすごい。又、槍ヶ岳の北鎌尾根もよく見えた。

次の日も行動が長いので、ケ。0。0。3に収めた。

NO.			
作成	年	月	日
	部	課	

8/13 三侯山荘 - 烏帽子小屋

配布先	



(コ-スタム)
 2:00起床 快晴
 三侯山荘 4:05 -
 5:00 鷺羽岳 (日の出)
 5:25-6:35 水晶小屋
 6:45 (空身でスト-)
 7:05 水晶岳 7:40 -
 7:55 水晶小屋 8:20 -
 9:10 (2833) 9:25 -
 10:28 野五郎岳 11:05
 11:55 三ツ岳手前雪渓
 (水) 12:25- 1:15
 烏帽子小屋 (テント設営)

(所見)

朝起きると空は満天の星空。出発の時も北の空、南の空ではあちらこちらで星が降り始める。始めのピークは鷺羽岳へのきつい登り。日の出が間近と、三人とも少々無理をする。そのかいあって日の出5分前に着く。日は燕岳方面から真赤に燃えて昇る。三人共寒さに震えながら記念撮影。水晶岳へは小屋から空身でベスト。空腹で三人共足の出が悪く。水晶からの下りは赤茶けた砂地で乾燥していて滑りやすい。途中小屋方向を振り返ると、あの赤茶の岩群が迫力があり、美しいとさえ思った。野五郎への登りはたぐたぐの登りだから早登ろうと予想していたが、暑さが身にこたえ、皆17気味だが頂上で槍・水晶等の素晴らしい景色によから一と感動する。三ツ岳手前の雪渓で水を確保しようと、トラバーストを行く。雪渓で体には十分の水の補給をすれば、次は生き別れ、烏帽子小屋へ行く。テント設営後、烏帽子小屋まで40分かけて空身でベスト。頂上では一人ずつ交替で大きな岩をこぎ登る。かえりに二、三、烏帽子から振り返ると、烏帽子の姿が地蔵のバリエーションのおどろきの良しであった。

経路
 作成部署
 報告部署
 保管
 原紙
 写
 年

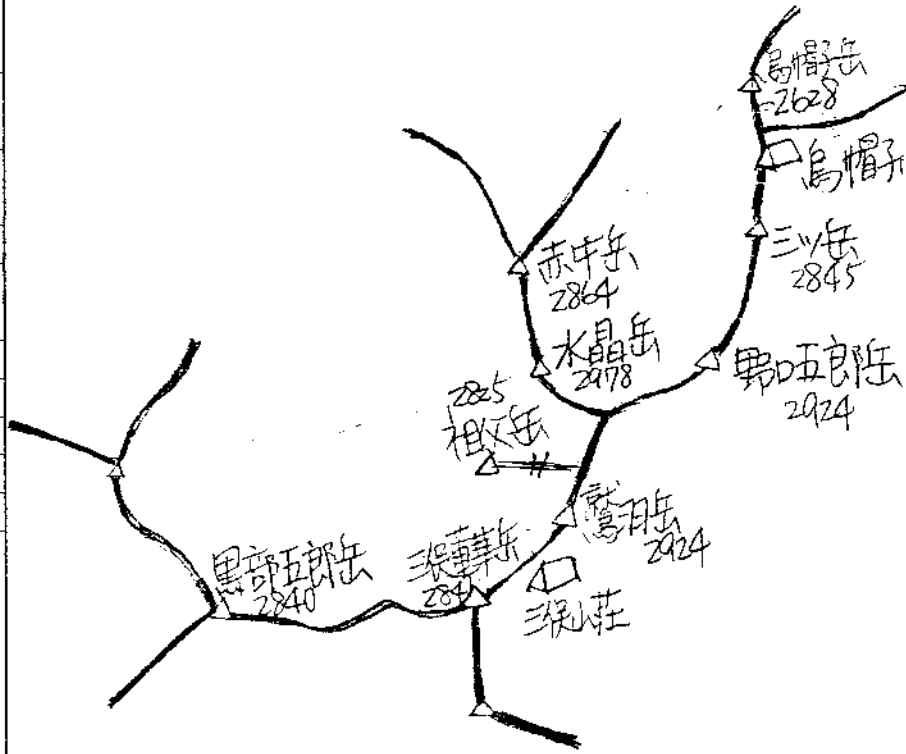
承認	
検討	
作成	板倉

〒
〒

8/13 三俣山荘 - 烏帽子小屋

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	



(コ-スタム)
 2:00起床 快晴
 三俣山荘 4:05 -
 5:00 鷺羽岳 (日出)
 5:25-6:35 水晶小屋
 6:45 (空身でスト-)
 7:05 水晶岳 7:40 -
 7:55 水晶小屋 8:20 -
 9:10 (2833) 9:25 -
 10:28 野五郎岳 11:05
 11:55 三ツ岳手前雪渓
 (水) 12:25-1:15
 烏帽子小屋 (テント設置)

(所見)

朝起きると空は満天の星空。出発の時も北の空、南の空ではあちらこちらで星が降り始める。始めのピークは鷺羽岳へのきつい登り。日出が間近と、三人とも少々無理をする。そのかいあって日の出5分前に着く。日は燕岳方面から真赤に燃えて昇る。三人共寒さに震えながら記念撮影。水晶岳へは小屋から空身でベスト。空腹で三人共も足の出が悪く。水晶からの下りは赤茶けた砂地で乾燥していて滑りづらい。途中小屋方向を振り返ると、あの赤茶の岩群が迫力があり、美しいとさえ思った。野五郎への登りは、たまたらの登りだから早めようと予想していたが、暑さが身にこたえ、早117気味だが頂上で槍・水晶等の素晴らしい景色によから一と感動する。三ツ岳手前の雪渓で水を確保しようと、トラバーストを行く。雪渓で体には十分の水の補給をしないと次々生き別れ、烏帽子小屋に到着。テント設置後、烏帽子岳まで40分かけ空身でベスト。頂上では一人ずつ交替で大きな岩をこぎ登る。かえりに二ヶ所、烏帽子小屋から振り返ると、烏帽子の姿が地蔵のバリエーションのおどろきの良みであった。

保管
原紙
写
年

承認	
検討	
作成	板倉

夏山合宿行動記録 8/14分

NO.

作成 89年 8月 16日

部 課

8/14(月) 2:00起床

鳥帽子キャンプ場 — 鳥帽子南天鞍部 — 南沢岳 — 不動岳
 3:30 4:25 4:40 5:00 5:15 6:20 6:45
 — 2299P — 2459P(船窪峠) — コル — 船窪キャンプ場
 7:55 8:15 9:00 9:20 9:45 11:00

前日の天気図で日本海に前線を伴った低気圧があり、心配していたが、出発時は雲が多少ある程度だった。今日はSLの板倉君のパワーで3時半に出発できた。南沢岳への登りは、そう長くはないが合宿6日目の疲れた足にはえらい。南沢岳ピークで丁度御来光に間合った。雲がみいので朝焼けがきれいだった。不動岳へ着く頃から、次第に雲底が下がってきて、立山方面から赤牛・水晶のピークが雲に隠れて、悪天の様相を示している。船窪岳手前の2299ピークの辺りから小雨がパラつき出したのでカッパを着る。船窪岳の白い崩壊壁がすごい。船窪岳最高点の2459ピークまでは、大体左側の林の中をトラバースしていて2.3ヶ所針金が渡してある。2459ピークには、私が8年前、大学の合宿の時設置した船窪岳の標示板がまだしっかりと残っていた。次の2万5千圓の船窪岳ピーク辺りが最も険悪で、岩がもろいので仕末が悪い。最後は疲れた足にムチを打ってテン場まで一本で行く。

大矢

配布先	

経路 作成部署↓報告部署

保管 原紙 写 年 年

承認

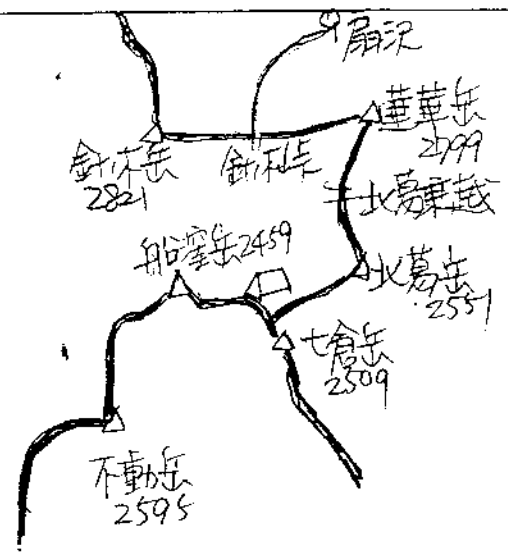
検討

作成

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

8/15. 船窪キヤ地 - 針木 - 扇沢

配布先	



(7/27/14)
 3:30 起床 雨
 4:51 - 5:11 七倉岳
 5:53 北葛乗越手前 6:05 -
 6:57 北葛乗越手前 7:05 -
 8:00 (2650) 8:15 -
 8:45 蓮華岳 9:05 - 9:35
 針木峠 9:38 (空身) 10:10
 針木岳 10:28 - 10:52 11:15
 11:10 - 1:20 扇沢

(所見)
 いよいよ今日が最終日。最後には晴れてほしいという願い空しく、日本海にある前線が停滞すること、雨とガスとの視界ゼロの中での針木峠を目差し出発する。北葛乗越からは蓮華の大下りならぬ大登りの開始である。取付で出会ったパーティは「我々は下りで1時間かかたから3時間はかかるぞ」と親切に驚かされる。前半は、鉄バシゴの連続とガス場で雨も手伝って落石を落とすように三人離れに登る。上部は、ツクサクの登りで頂上はすくもこのガスの中のニセピークに4、5回さまよった。そのツクサクの登りでは、今まで11時意味の伊藤さんからのようにラストパートを明け、僕の後からプレッシャーをかける。頂上のかたし手前からツクサクが四一面ピークに染める程の群生を見せ、マラソンランナーに旗を振る市民の所に応援にくわゆる。頂上では、最後のピークといふことば硬い握手をし、峠へと下山する。針木岳へは空身で出掛け、三人揃って最後の記念撮影。360°の展望を期待したが360°ガスの中であたが一瞬、刺か顔を見せ、とんだけで満足し下山する。針木雪渓は、7月未だからのように溶け、ほんのり夏道が顔を見せ、扇沢は、あんなに固であった。その後大町温泉郷で(周囲の山と)夏を共に過ごし、電車に乗り、大満足の日行を終える。

経路
 作成部署・報告部署
 保管
 原紙
 写
 年

承認
検討
作成
板倉